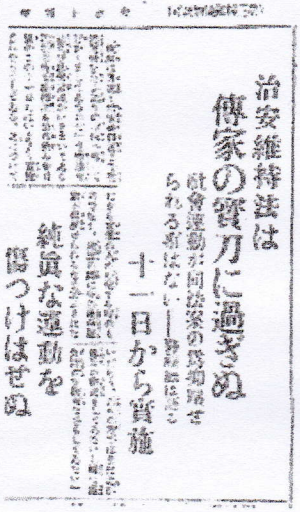
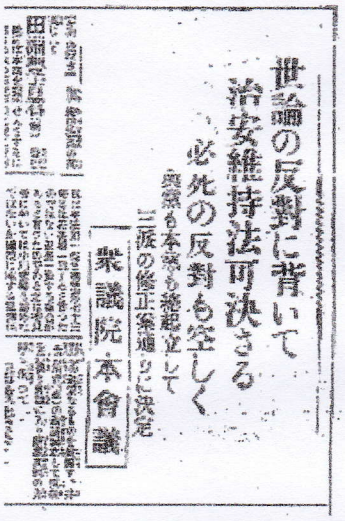
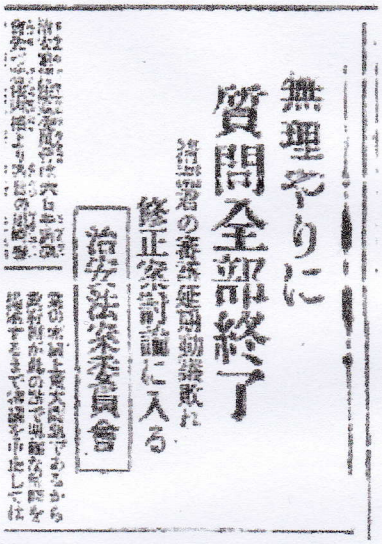
森 達也 [テレビディレクター、映画監督、作家]

治安維持法制定時の新聞を見て実感、この国はまた同じ時代を繰り返す

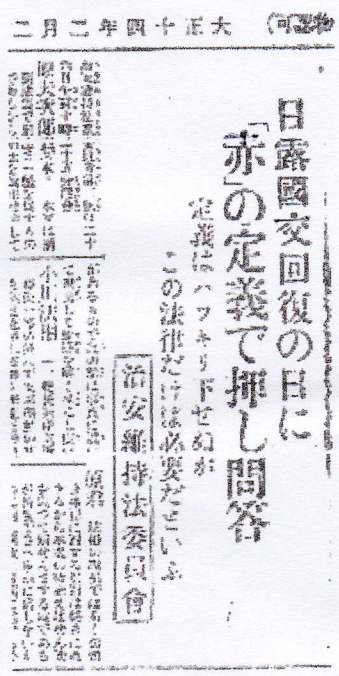


見出し（3）「治安維持法は伝家の宝刀に過ぎぬ」（朝日新聞 1925年5月8日）





（左）見出し（1）「世論の反対に背いて 治安維持法可決さる」（朝日新聞 1925年3月8日）
（右）見出し（2）「無理やりに質問全部終了」（朝日新聞 1925年3月7日）



見出し（4）「日露国交回復に火に『赤』の定義で押し問答」（朝日新聞 1925年2月27日）

[治安維持法]（ちあんいじほう）

1925（大正14）年、社会主義運動や労働運動を取り締まるために男子普通選挙法と抱き合わせに制定された法律。天皇を中心とする国家体制（国体と言いました）や私有財産制度を否定するすべての結社や行動を禁止（分かり易く言うと共産党の取り締まり）。しかし、共産党員にとどまらず、自由主義者や戦争に反対する人たちも逮捕・投獄されました。

のち、1928（昭和3）年には処罰に死刑が加わり、特高による監視網や密告網などで70,000人以上もの人が犠牲になりました。小林多喜二は捕らえられたその日のうちに拷問の末虐殺されました。

悪法としても名高く、戦後すぐの1945（昭和20）年に廃止されました。しかし、治安維持法で犠牲になった人たちによる治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の運動にもかかわらず今なお補償はされていません。

加藤周一

かとう しゅういち
作詞家

加藤 周一は日本の評論家。医学博士。妻は評論家・翻訳家の矢島翠。上智大学教授、イェール大学講師、ブラウン大学講師、ベルリン自由大学およびミュンヘン大学客員教授、ブリティッシュ・コロンビア大学教授、立命館大学国際関係学部客員教授、立命館大学国際平和ミュージアム館長などを歴任。